



（有）林庭園設計事務所  
 〒193-0823 東京都  
 八王子市横川町991-6  
 TEL:042-622-8840  
 再刊 VOL.12

和風庭園は、今や宿根草の花々に一変!!

「お庭大改造!」邸の実例

剪定が素人には難しいマツ類、葉巻虫がよく付くモッコク等を移植し、家屋の和風から洋風への転換また施主の世代交代に伴い、よりローメンテナンスな宿根草の草花中心の庭作りへの大改造の作例として今号で取り上げてみました。これからも多く直面せざるを得ない課題でも有ります。

庭改造に当たっては、洋花をやや不得意とする植木職人に、草花が中心とする園芸家をスタッフに加わってもらいました。



やむなくモッコクとゴヨウマツは移植!

今回の花壇は良く日当たる所、また、風の良く通る所、環境に応じた花の選択を施主の奥様と施工前の楽しみを一緒にする事にしました。

日当たりの良い玄関前には、可憐なカンパニユラ、花形が特徴的な西洋オダマキ等の花形の面白さと、花色の豊かさを選びの中心としました。また風通しの良い所には、風に揺れる姿に風情が美しいガウラ等、その選択に工夫を加えてみました。また、アンジュレーションを付けた芝貼りで立体感と奥行を出したことで、庭全体に解放感を得られたのも手柄と自負しております。

花柄摘み等、手も増えましたが、職人任せの庭管理から、それこそ我が庭感が増えました。



“芝生”で、解放感が・・・!!



花壇は、まさに百花繚乱



カラスウリは、よく知られたウリ科の蔓植物です。でもその語源は、はつきりしていません。カラスノエンドウやスズメノエンドウの様にその大きさにより鳥類のカラスやスズメの様に分けていると思われるが、そうでもないらしい。

確かにスズメウリというウリ科の野生種もあるそうで、雀ではなく“鈴女瓜”と書き、鈴生りに成る“女”は、かわいらしいの意で、“鈴生りになる小さな瓜となる。ではこのカラスは鳥類でなく何なのでしょうか。

古い文献を渉猟すると、中国湖南省辰州産の赤い墨、朱墨ではないか。この辰州産の“辰砂”は、陶芸でもよく使われる赤い釉薬で、すなわち中国産の赤い墨の“唐朱瓜”ではという説が有力となっている。朱を

“ス”と発音するのは朱雀門の如くまれではありません。またこの種の形が、打出の小槌に似ていることから、この種をサイフに入れるとお金が殖えるとの言い伝えが有ります。お試しあつては・・・



カラスウリの実



カラスウリの種



樹木中心から草花の庭への改造には、植木屋としては戸惑が有りました。施主様の高齢化や次世代への引継ぎ等、庭に対するメンテナンスの面では、この流れは時代の趨勢でやむを得ない面が有ります。個人邸では、その傾向が特に強い様に想われます。

一方、寺社や公共性の強い施設では、木々のもたらす静かさや自然感のある安らぎを求めるといふ二極化が進んでいます。幸い弊社ではこれらの施主も多く、松等の手入れの伝統的技の学びを得ている所で有ります。